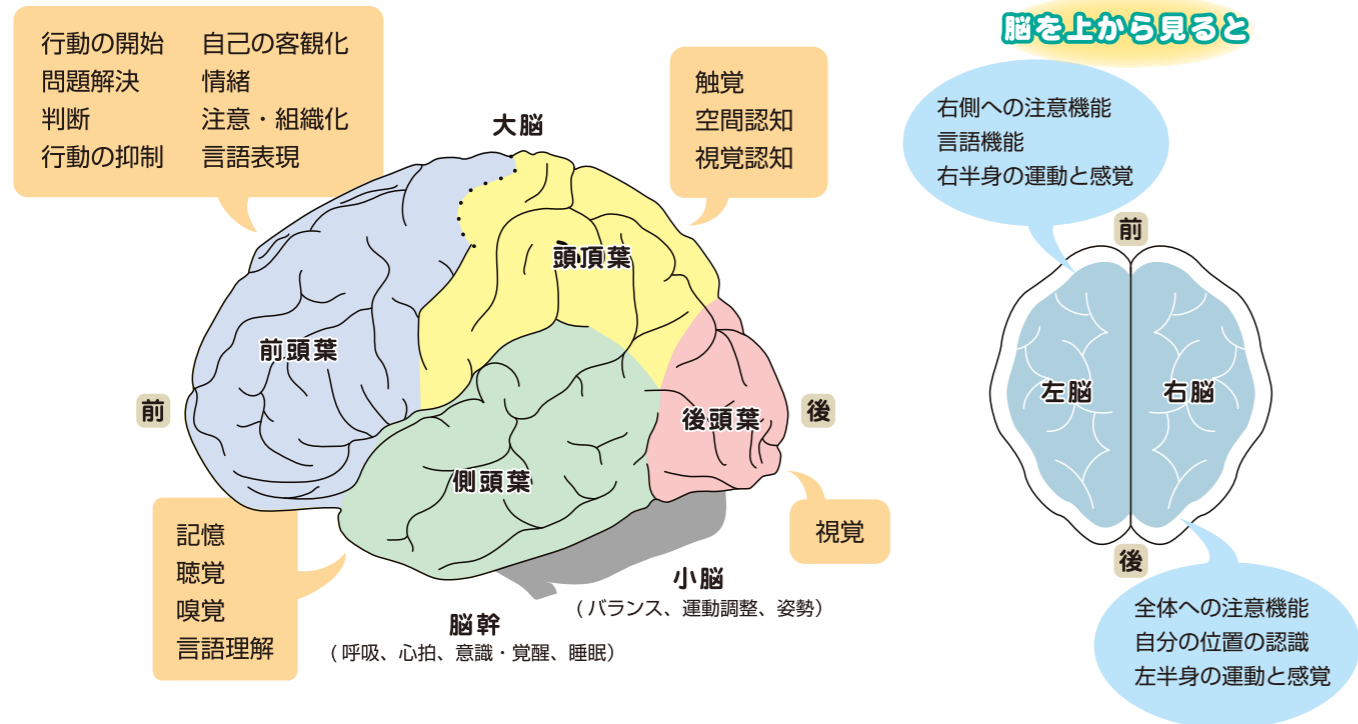


脳の仕組み

脳は部位によって役割を分担して働いています。外から入ってきた多くの情報（視覚、聴覚、嗅覚、触覚等）を処理して適切な行動に移すために、いくつかの部位が神経ネットワークでつながりあって働いています。脳卒中などの病気や、外からの強い力が加わると、脳細胞が傷つきうまく動かなくなります。また脳細胞と脳細胞をつなぐ神経線維が切れると、脳内で情報をスムーズに伝達することができません。



主な原因

- 脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）
- 脳外傷（脳挫傷、びまん性軸索損傷など）
- 脳炎、脳腫瘍
- 低酸素脳症（一酸化中毒、心肺停止蘇生後）

だれもが、ある日突然
なるかもしれない障害です。

福祉サービスの利用

後遺症の状況によっては障害者手帳を取得して、さまざまな福祉サービスを利用する事ができます。（障害者手帳に該当するかどうかの基準や手続は、それぞれの障害者手帳制度により決まっています。）

脳の損傷による後遺症	手足のまひや言語、視野の障害がある時	身体障害者手帳
	発達期（18才未満）に受傷した場合	愛の手帳（療育手帳）
	記憶や注意機能、社会的行動上の障害がある時	精神障害者保健福祉手帳

相談窓口や利用できるサービスの情報が欲しいとき

とうきょう高次脳機能障害インフォメーション
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/kojino/index.html>

平成28年10月
 発行：東京都心身障害者福祉センター 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ
 電話 03-3235-2952

東京都
 再生紙を使用しています

高次脳機能障害の理解のために

脳卒中などの病気や交通事故などで脳の一部分がキズを受けると、その損傷部位により特定の症状が出ます。身体のみひや視聴覚の障害とは別に、思考・記憶・行為・言語・注意などの脳機能の一部に障害が起きた状態を、高次脳機能障害といいます。



脳損傷後の後遺症

外見からわかりにくい・一人ひとり症状が違う

高次脳機能障害の色々な症状

注意障害

集中力が続かない。気が散りやすい。複数のことを同時にやれない。

記憶障害

病気やケガの前よりは良く覚えているのに、新しいできごとを覚えられない。

失語

話を理解できない、話そうとしても言葉が出てこない。文字が読めない、書けない。



元気になってよかったね！

でも、前と少し変わってしまった…？

さあ、社会復帰だ。がんばるぞ！

あれ？なんかへんだな。うまくいかない…

遂行機能障害

段取りよくものごとを進めることができない。優先順位がつけられない。

半側空間無視

目では見えているが、片側の空間を見落としてしまう。

感情と社会的行動の障害

感情や欲求のコントロールができない。やる気が起きない。人柄が変わってしまう。

このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての高次脳機能障害にあてはまるわけではありません。中途半端な知識と思いついて、障害のある方に接することは、避けなければならないことです。「その人」の理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。

例えば

こんなことに困ることがあります

程度や現れ方は人さまざま。
本人が気づきにくいこともある。

とてもつかれやすくなる 思考のスピードが遅くなる

- 脳の損傷があると、疲れやすくなります。
- あくびが出て、今やっていることに集中できなくなります。
- 疲れていることに気づかず、イライラしてしまうこともあります。
- 一度にいくつものことを考えることが苦手になります。
- 以前と同じようなテンポで物事を処理することは難しくなります。



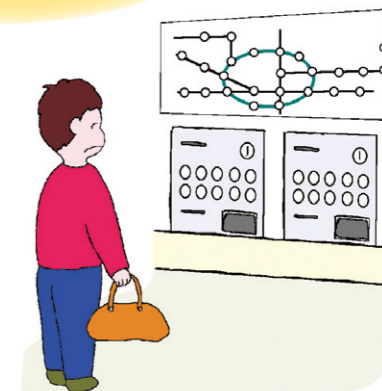
コミュニケーションが うまくいかない

- 左脳の言語野を損傷すると、話す、聞く、書く、読むなどの言語機能に障害が起こります。
- 話したいことが頭に浮かんでも言葉がスムーズに出てこないこともあります。
- よく知っていたはずの文字や数字を扱うことが苦手になる場合もあります。
- 右脳の損傷では、相手の表情をうまく読み取れない、場の雰囲気に鈍感になる、などが生じます。



図や表示の意味が よくわからない

- 文字が読めなくなることがあります。
- 左側（あるいは右側）の空間にある情報を見落としてしまうことや、たくさんの情報が示されると、一度に処理する事が難しくなります。
- 地図と自分の位置がうまく確認できずに迷ってしまう人もいます。



新しいことを覚えにくい

- 脳損傷による記憶障害では、病気や事故にあう前の記憶は比較的よく保たれます。
- さっき話したことや聞いたことを忘れて繰り返し同じ話をする、新しい手順を覚えることが難しい、同じ間違いを繰り返してしまう、などが起こります。



段取りよく、物事を進められない

- 一つのことをやり通すのに時間がかかります。
- 優先順位をきめられない、間違いを修正することができない、などが起こります。
- 目標を定めたり、計画的に進めることが苦手になります。



感情のコントロールがきかない

- 些細な事で腹を立てたり涙もろくなる場合があります。
- 指示されない行動を起こせなかったり、物事への意欲が低下してしまうこともあります。
- このように病気やケガの前と人柄が変わってしまうので、周囲の人が戸惑います。



対応の基本

- 受傷後、日常生活や対人関係、仕事などがうまく行かず自信をなくし、混乱や不安の中にある事を理解しましょう。
- これまでの生活や人生観などを尊重した関わりをもつようにしましょう。

具体的には

- ゆっくり、わかりやすく、具体的に話します。
- 情報は、メモに書いて渡し、絵や写真、図なども使って伝えます。
- 何かを頼むときには一つずつ、具体的に示します。
- 疲労やいらいらする様子が見られたら一休みして気分転換を促すようにします。
- 手順を簡単にする、日課をシンプルにする、手がかりを増やすなどの環境の調整をすることが大切です。

高次脳機能障害の変化と回復

- 何年もかけてゆるやかに変化していきます。
- 回復の状況によっては、再び職業生活に挑戦することもできます。
- 人それぞれ違う障害の特徴を、周囲が理解しサポートする必要があります。
- 思いがけない病気や事故による障害のため、ご本人や家族にとって、以前との違いを理解し受け止めるのに時間がかかります。

できない事より
できる事を見つけよう。

あせらずゆっくり、
生活の中でリハビリを

本リーフレットは障害のある方と、より良いコミュニケーションを築ききっかけとなることを願って作成しました。さらに詳しい内容は「障害のある方への接遇マニュアル」に掲載されています。詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/index.html>

